

令和7年度中央アルプスにおけるライチョウ復活プロジェクト

1. 概要

環境省では2020年以降、乗鞍岳からの3家族（19羽）と飛来雌1羽の計20羽をもとに、絶滅した中央アルプスにライチョウを復活させる事業に取り組んできた。19羽を放鳥した野生復帰事業をはじめとする令和7年度までのプロジェクトのとりまとめを行った。

2. 令和7年度なわばり調査結果

令和7年度4月から6月にかけて令和7年度シーズンのなわばり調査を実施し、中央アルプス全体で87のなわばりを確認し、198羽が繁殖しているものと推定した。令和6年度（58なわばり計130羽）からさらに生息数が1.5倍に増加し、中央アルプスでの個体群の復活の取り組みが前進した。復活プロジェクトの開始以降、中央アルプス全体でなわばりは約2倍ずつ増加してきており、令和7年度の調査結果によってライチョウの生息が可能な場所いっばいに、ほぼなわばりが形成されたことがわかった。

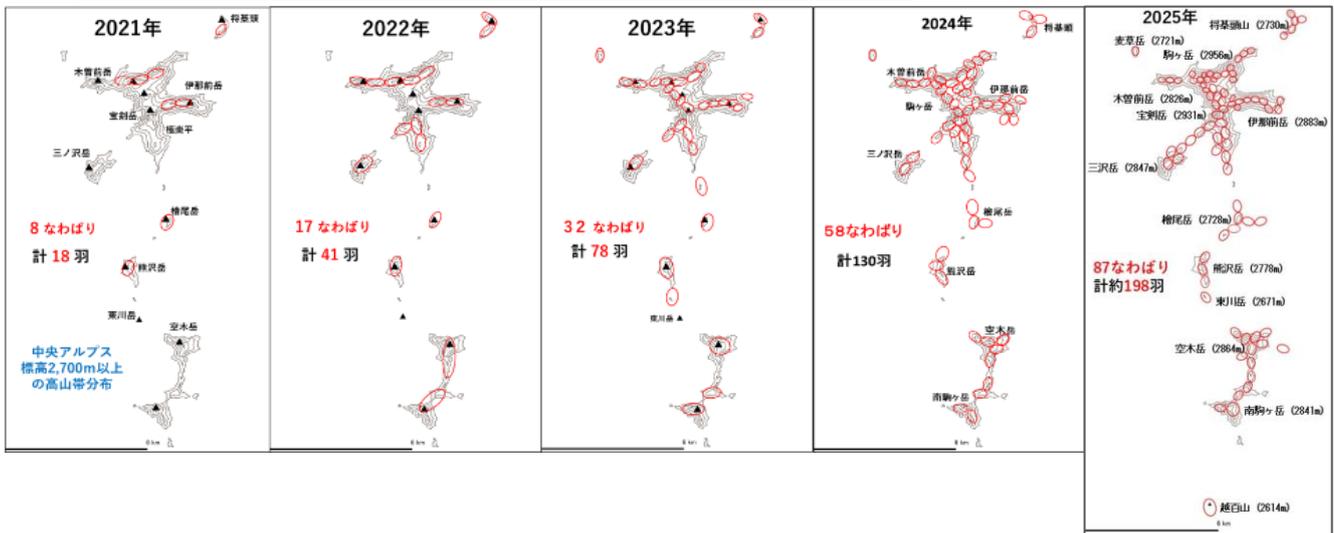


図1：中央アルプスにおける推定なわばり数及び生息個体数の年変化

3. 分布範囲の拡大について

また、今回の調査で、中央アルプス最南部の越百（コスモ）山で初めてライチョウのなわばりが確認され、つがいの雌雄と抱卵中の巣が確認された。このことから、中央アルプスで生息可能な範囲全体（北限：将基頭山～南限：越百山）にライチョウの分布が拡大したことがわかった。



写真1左：越百山で確認された雄のライチョウ（6月8日）

写真2中：抱卵中の雌（6月9日）

写真3右：確認された巣（6月9日）

4. 飛来雌の確認状況

北アルプス方面の山岳から飛来し復活プロジェクトのきっかけとなった「飛来雌」については、復活プロジェクトで導入された雄とつがいになり、6月22日の調査で6卵の産卵を確認し、6月28日にヒナ6羽が孵化しているのを確認した。

飛来雌は5年連続繁殖し計17羽の雛を育てあげ、復活に貢献した。



写真4：孵化後数日の雛を連れた飛来雌（7月1日）

5. 昨年度の野生復帰個体の足環と生息確認状況

令和6年9月に、那須どうぶつ王国の雛2羽及び大町山岳博物館の雛5羽の計7羽を野生復帰し、令和7年度の生存状況を調査しているが、那須どうぶつ王国の1羽が3月と4月及び10月に確認されているのみである。

表1：令和6年度の野生復帰個体の足環と生息確認状況

野生復帰個体飼育園	性別	足環の色（左下左上・右下右上）	確認状況
那須どうぶつ王国	雌	黄黄・白赤	R7 確認、 最終は 10/19
	雄	黄黄・白空	-
大町山岳博物館	雌	黄黄・黒赤	-
	雌	黄黄・黒黄	-
	雄	黄黄・黒空	-
	雄	黄黄・黒黒	-
	雌	黄黄・黒白	-

6. 今年度野生復帰事業結果

遺伝的多様性の確保及び野生復帰技術の確立を目的に、令和7年度は、雛の他に成鳥も対象として19羽を放鳥する野生復帰を実施した。（公社）日本動物園水族館協会加盟動物園の那須どうぶつ王国、長野市茶臼山動物園、市立大町山岳博物館、いしかわ動物園の4園で飼育・繁殖したライチョウ19羽を計2回にわけて中央アルプス駒ヶ岳へ移送した。ケージによる順化の後、第1回目の9月10日に移送した8羽を9月17日と19日に、第2回目の9月22日に移送した11羽を9月25日と29日に放鳥した。

なお、野生復帰事業における放鳥は令和7年度が最後であり、今後は放鳥した野生復帰個体の生存及び繁殖状況についてモニタリングを実施する。

(1) 令和7年度野生復帰事業実施結果

野生復帰事業として、中央アルプス駒ヶ岳の頂上山荘周辺において、2回にわけて19羽を移送後、ケージによる馴化作業を行い、その後放鳥した。

第1回目：9月10日8羽を移送し2つのケージに収容（頂上山荘付近）

- 17日成鳥オス2羽を放鳥
 19日雛5羽及び成鳥メス1羽を放鳥
第2回目：9月22日11羽を移送し3つのケージに収容（頂上山荘付近）
 25日成鳥オス3羽を放鳥
 29日雛6羽及び成鳥メス2羽を放鳥

(2) 令和7年度野生復帰個体について

野生復帰事業における放鳥個体の飼育園館は、市立大町山岳博物館、那須どうぶつ王国、長野市茶臼山動物園及びいしかわ動物園の4園館。個体は表2のとおり。

表2. 野生復帰個体の内訳

野生復帰候補個体飼育園	雛	成鳥
市立大町山岳博物館	3	0
那須どうぶつ王国	7	3
長野市茶臼山動物園	0	2
いしかわ動物園	1	3
合計	11	8

[第1回野生復帰事業放鳥個体]

大町：幼鳥3羽（♂3，－）、－
 那須：幼鳥2羽（♂1，♀1）、成鳥3羽（♂2，♀1）

[第2回野生復帰事業放鳥個体]

茶臼：－、成鳥2羽（♂1，♀1）
 石川：幼鳥1羽（♂1，♀0）、成鳥3羽（♂2，♀1）
 那須：幼鳥5羽（♂2，♀3）、－

(3) 事後調査結果

9月に放鳥した野生復帰個体の生存状況について、10月及び11月に週1回程度の頻度で事後調査を実施したところ、合計19羽の放鳥個体のうち、11個体が確認された（表3）。

表 3 : 令和 7 年度の野生復帰個体の足環

	野生復帰個体飼育園	放鳥日	性別	幼・成	生年	足環の色 (左下左上・右下右上)	最終確認日 (9月は参考)	島田娘での確認	
第1回目放鳥	市立大町山岳博物館	9/19	雄	幼	2025	白空・赤黄	10/25	11/8	
			雄			白空・赤白	10/25		
			雄			白空・赤黒	—		
	那須どうぶつ王国	9/19	雄	幼	2025	白空・赤空	10/24	9/20	
			雌			白空・空空	9/20		
		9/17	雄	成	2023	白空・黄黄	10/25	10/26	
			雄			白空・黄黒	10/26		
第2回目放鳥	茶臼山動物園	9/25	雄	成	2019	白空・黒黒	9/28		
		9/29	雌		2024	白空・黄赤	—		
	いしかわ動物園	9/25	雄	成	2024	白空・黒黄	10/24		
			雄		2024	白空・黒白	10/26		
		9/29	雌	2024	白空・赤赤	—			
	那須どうぶつ王国	9/29	雄	幼	2025	白空・空白	—	10/2	11/8
			雄			白空・白黄	10/2		
			雌			白空・白空	10/25		
			雌			白空・白赤	10/25		
			雌			白空・白白	—		
	雌	白空・白黒	—	—	—				

(調査実施日：10月2, 10, 11, 12, 18, 19, 24, 25, 26日、11月7, 8, 15, 22, 24日)

※11月以降は積雪のため高山帯から移動したと考えられる。

7. 6年間の野生復帰事業と繁殖数の整理

以下に、6年間の野生復帰事業の繁殖数の整理を示す。

赤数字：ヒナの放鳥数 黒字：成鳥

育ち	中央アルプスへの導入形態	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
	1 独自に(飛来雌)	1	1	1	1	1	1	1	1
育自然	2 乗鞍岳からへりで移植			16	15	11	9	5	5
				3	2	2	2	1	1
育自然	3 動物園から補強					16	6	3	3
						6	2	2	2
人工飼育								7	1
									11
									8
	外部からの個体の繁殖数 小計	1	1	1	18	14	20	12	13
	山で生まれ育ち繁殖した数					27	63	108	185
	各年の繁殖数 合計	1	1	1	18	41	83	120	198

図 2. 導入形態と繁殖数の年変化 (中央アルプス生まれとの比較)